「第6回JOFC総会 in 札幌’12」交流会議事録

日時　　平成２４年１１月１０日午後６時～８時
場所　　札幌パークホテル２階パールルーム
司会　　深井　雅昭（札響くらぶ事務局次長）
　　前田　郁子（札響くらぶ会計監査）

進行次第

１．札響有志によるオープニングコンサート
２．開会宣言
３．歓迎あいさつ……札響くらぶ副会長　鈴木　美保
４．開会のことば……ＪＯＦＣ副会長　加藤　聡（山響ファンクラブ顧問）
５．来賓あいさつ……札幌交響楽団理事長　村田　正敏　様
（北海道新聞代表取締役社長）
６．開　宴
乾　杯……ＪＯＦＣ副会長　小野　善平（群響ファンズ会長）
来賓スピーチ
札幌市観光文化局文化部長　杉本　雅章　様（札響評議員）
石川県音楽文化振興事業団常務理事　三国　栄　様
札幌交響楽団事務局長　宮澤　敏夫　様
（札幌交響楽団音楽監督　尾高　忠明　様のメッセージの紹介）
札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長　柿崎　昭　様
参加クラブ、札響の紹介
札幌交響楽団事務局、楽団員
広響フレンズ
石川県立音楽堂楽友会
群響ファンズ（群響を応援する県民の会）
山響ファンクラブ
仙台フィルハーモニークラブ
名フィル・ファンクラブ
札響くらぶ
７．閉会のことば……ＪＯＦＣ幹事長　西川　吉武（札響くらぶ副会長）
８．閉会宣言

オープニングコンサート

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　定刻になりましたので、オープニングコンサートとして、札響チェロ首席奏者、石川祐支さんによるソロコンサートが用意されており、既にスタンバイされております。

それでは、お願いいたします。
石川さん、準備のほうはよろしいでしょうか。（拍手）
それでは、よろしくお願いいたします。

（石川氏によるチェロ演奏）

ありがとうございます。
それでは、改めて演奏者の紹介をさせていただきます。
札幌交響楽団チェロ首席奏者、石川祐支さんでございます。（拍手）
ただいまの曲を紹介させていただきます。
ヨハン・ゼバスティアン・バッハ作曲、無伴奏チェロ組曲第３番、ハ長調ＢＷＶ１００９より「プレリュード」でした。
続きまして演奏いたしますのは、同じくバッハ作曲、無伴奏チェロ組曲第３番、ハ長調ＢＷＶ１００９より「ブーレ」です。
改めて拍手をお願いいたします。（拍手）

（石川氏によるチェロ演奏）

ありがとうございました。
余談ではございますが、ただいま演奏に使用いたしました楽譜のバインダーですけれども、札響くらぶの「楽譜支援」の一部として、以前提供させていただいたものを使用いたしております。

開会宣言

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　ただいまから第６回日本プロオーケストラファンクラブ協議会　ｉｎ　札幌２０１２交流会を開催いたします。（拍手）
なお、協議会名は、以後、ＪＯＦＣと省略させていただきます。
本日は、交流会に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。
私は、札響くらぶ事務局次長の深井雅昭、隣は札響くらぶ会計監査の前田郁子でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）
○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。（拍手）

歓迎のあいさつ

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　それでは、交流会開会に当たりまして、札響くらぶ副会長、鈴木美保より歓迎のあいさつを申し上げます。
よろしくお願いします。（拍手）
○鈴木美保（札響くらぶ副会長）　　皆様、こんばんは。
市内を臨む１，０００メートル余りの手稲山山頂に白いものが光ります。そして、イチョウ並木の輝く秋真っ盛りの札幌へ、ようこそおいでいただきました。
ただいまの札響チェロ首席奏者の石川さんの演奏は、本当にすばらしかったと思います

が、いかがですか。（拍手）
　石川さん、札幌交響楽団の皆様、本当に今日はありがとうございました。
　さて、第６回ＪＯＦＣ総会札幌大会、それと交流会に、札幌市及び来賓の方々、御参加いただきまして、まことにありがとうございます。遠くは広島から、そして、３８度の暑さの中で総会を開かれた名古屋から、それから、昨年、日本文化の薫る金沢から、そして、地域オーケストラの伝統と歴史を誇る群馬から、そして、受賞映画に出演された山形から、それから、大震災の復興に立ち上がっている仙台から、地元のオーケストラファンの皆様方、ようこそいらっしゃいました。
　きょうのＪＯＦＣ札幌宣言にありましたように、「音楽は、人の生きる力の支えになる」とありますが、私どもオーケストラファンは、まちの支える力になりたいと思います。皆様が愛し、誇りに思うオーケストラのことをお互いに語り合い、そして、この交流会が皆様のきずなを深めていく会でありますように心からお祈りいたしまして、歓迎のごあいさつといたします。
　どうもありがとうございました。（拍手）
○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。
　札響くらぶ副会長、鈴木美保より、歓迎のあいさつを申し上げました。

開会のことば
○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　続きまして、山響ファンクラブ顧問でありますＪＯＦＣ副会長、加藤聡より開会の言葉を申し上げます。
　よろしくお願いします。（拍手）
○加藤　聡（ＪＯＦＣ副会長）　　皆さん、おばんでございます。
　私がお話ししたいことは全部、鈴木副会長にお話しいただかれてしまった感じになっておりまして、困ったなと思いましたが、ごあいさつを差し上げるに当たって、ちょっと、去年、見事に実現した仙フィルと山響の合同演奏による復活のお話を一言させていただきたいと思います。
　実は、去年の３．１１、私自身も出張で仙台におりました。自分の身の回りに起こっている事実がよく把握できませんでした、正直。少なくとも自分の命が危険にさらされているということは何となくわかりました。
　そんなような状況ですから、その後、たしか山響は、その日、鶴岡での定期のコンサートがあって、ステージ上でステリハをしていたはずです。モルダウを気持ちよく弾いていたら揺れ始めたということのような状況でありましたので、やはり山響が心配だったので、何人かにお電話をしたりしました。
　やはり、大変、物すごいことが起きてしまったという事実の確認と、それから、自分たちがこれから何ができるのだろうか、何をしていけばいいのだろうかということをすぐさま山響のメンバーの皆さんは悩んでおられました。
　もう一つ、そこで、かなり、自分たちが何もできないという無力感みたいなものをまず最初に感じておられたような気がしました。
　その後、１年４カ月かかって、あの復活の演奏会が実現したわけでありますが、そのステージ上では、みずからがしておられることが本当に復興の心にしみているということを

確認できたのではないかなというふうに思ったのと、それから、決して大きな力ではなかったかもしれませんが、ＳＰＣと山響ファンクラブが手を取り合って、その演奏会に、いろいろなところでお手伝いしたと。そこにはＪＯＦＣの皆さんの魂が入っているということは、きちんとこの場で御報告をさせていただきたいというふうに思います。本当にすばらしい演奏会だったと思います。

さて、１２時から総会が始まって、尾高先生と札響の皆さんのすばらしい演奏を聞かせていただいて、なおかつ石川さんのバッハを聞かせていただいて、もう思い残すことはないのでございますが、三つ目のメーンイベント、交流会、懇親会でございます。

実は私、ことし札幌にお邪魔するのは３回目でございます。１回目と２回目は静かに参りました。きょうは少し皆さんと一緒に騒いでもいいかなというふうに思っております。

皆さんの愛する故郷のオーケストラと、きょうの札響の皆さんのすばらしい演奏をさかなに、二次会はすすきのにお連れいただけるそうです。何とすてきな響きでしょう、すすきの。（笑い声）札幌の夜は決して皆さんを裏切らないと思います。私も一度も裏切られたことがありませんので、皆さん、きょうは思う存分、夜遅くまで札幌の夜を楽しみたいと思います。

きょうは本当にありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　どうもありがとうございました。

ＪＯＦＣ副会長、加藤聡より、開会の言葉を申し上げました。

来賓あいさつ

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　それでは、ここで、御来賓の方々のごあいさつをちょうだいしたいと思います。

札幌交響楽団理事長、村田正敏様にお願いいたします。（拍手）

○村田正敏（札幌交響楽団理事長）　　札幌交響楽団の理事長を務めております、北海道新聞社の社長の村田でございます。

皆さん、ようこそ札幌のまちにおいでいただきました。心から歓迎いたします。

また、本日のこの交流会にお招きいただきまして、感謝を申し上げたいと思います。

皆さん方の活動は、特に地道な活動は、日本のオーケストラをやっぱり底辺で支えているのだというふうに私自身は思っております。

私が札響の理事長になって２年半になるのですが、オーケストラを維持していく、特に地方都市でそれを維持していくということが、生半可なことではないのだなという強い思いを持っております。同時に、そうしたたくさんの困難があるのですけれども、オーケストラは、オーケストラの響きを地方で絶やすことがあってはいけないのだと思います。やはり日本の文化、特に音楽文化を支えていくために、どうしてもやっぱりここは頑張ってオーケストラを維持していきたいと強く思っている次第でございます。

私は、実感として、オーケストラを維持していくためには三つの要素が必要なのだなと感じています。

一つは、これは当たり前のことなのですが、やはり交響楽団自体の演奏能力のやっぱり維持、発展ということです。これは、ほかに手だてがなくて、優秀な音楽監督あるいは指揮者、そして何よりも楽団員をお招きするという、そして育ってもらうということが、ど

うしてもやっぱり欠かせないということがよくわかってまいりました。札響でも、財布の中を覗きながらではありますけれども、やはり優秀なそうした演奏者を集めていくという努力を、今も行っておりますし、これからも続けていきたいと思っております。

二つ目は、やはりすぐれた演奏会場の確保ということです。これは、札幌は恵まれています。皆さん、きょうはいらっしゃっていただけたと思いますけれども、Ｋｉｔａｒａというすばらしいホールがございます。私は詳しくございませんけれども、やはり音響から見ますと、日本有数ではなくて世界有数の施設だと聞いていまして、この音楽の殿堂があるということが非常に大きな強みになると思っています。

三つ目は、地域の支える力です。もっと具体的に申しますと、やはり自治体が理解をもってオーケストラを支える、そして、地域では市民の皆さん、あるいは企業の皆さんが全力でやはり支えていくということがとても大切だと思っております。実はこの点も札幌というのは恵まれておりまして、札響くらぶの会長をしています上田市長は、この点は物すごく理解のある方です。そこに支えられて札響がここまで育ってきたのだなという強い印象を持っている次第でございます。

三つ目の地域の支えの中の軸になるのが、皆さんの活動されているファンクラブだと思います。ファンクラブで会員をふやす、あるいはパトロネージュ会員をふやすということが、やはり、これからの長い活動の中で欠かせないのだと思っています。

会員を広げていくためには、この地道な努力と、それから強引な手法という両方必要だと思っているのです。私は、今は北海道新聞社の社長をしていますけれども、私たちの会社の役員任期というのは今は１年なのです。６月の株主総会があって、新役員が決まって、最初の取締役会を開きます。重要な経営書類を皆さんの机の上に置くのですけれども、その中に必ずパトロネージュ会員の申込書というのを置いておくのです。このときはみんな絶対断りません。今やっと役員になったときに、当然これはおまえの義務だぞということで、そのくらいのことをやらないと、なかなか集まらないものですから、やることはやりながらオーケストラの響きに酔いたいというふうに思っております。

繰り返しますけれども、皆さん方の活動は、大変それぞれの地域を支えております。そして、お互いに交流されることによって、成功体験の共有、それから失敗の共有、最も重要なのは、皆さん同士がこういう形で直接お知り合いになることだと思っているのです。そういった信頼関係の醸成がオーケストラ活動を支える一番大きな力になっていくのだと思っております。その意味で、この交流会を含めて大変重要なことが行われているのだと思っております。

今、加藤副会長からお話がありましたように、昨年の３月１１日の東日本大震災、大変な被害がありました。仙台も大きな被害がございました。昨年秋に仙台に行くことがありまして、被災地も随分見ました。そのときに、仙台の私たちの仲間の新聞社であります河北新報さんとの交流会があったのですけれども、去年の秋です。そのとき、仙台フィルの人たちが来て演奏をしてくれたのです。まだ被災地はすさまじい状況だったのですけれども、全国の我々の仲間が集まったときに、仙台フィルの演奏を聴いたときに、みんなやっぱり涙を流しました。それは、こうした厳しい状況の中でも音楽を絶やすことはしないのだという、熱烈な、メッセージが発信されたと私たちは受け取りました。

そういうことも含めて、ファンクラブの皆さんは全国で交流しておられますし、また、

オーケストラ自体も交流を深めながら、地方の音楽文化を支えるために頑張っていきたいと思っております。

これも繰り返しになりますけれども、上田市長には本当にお世話になっております。そうしたことも含めて、私たちはもっと立派な交響楽団にしていきたいと強く思っています。

札響は昨年、創立５０周年でした。ヨーロッパ公演をしてまいりました。ドイツ、それからイギリス、そしてイタリアだったのですけれども、音楽というのは国境を越えた感動を与えるということがよくわかりましたし、また、地域のオーケストラが世界の中でも指折りの、いわゆる実力を持ったっていいではないですか。地方にこそすばらしいオーケストラがあると言われてもいいではないですか。そういうことを私たちの大志として、これからも進めていきたいと思っております。

長くなりましたけれども、皆さんの活動に心から敬意を表しまして、これからも交流をよろしくお願いしたいということをお願いしまして、私のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

札幌交響楽団理事長、村田正敏様のごあいさつをいただきました。

開宴（乾杯）

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　それでは、長い時間お待たせいたしました。

ただいまから開宴をさせていただきますが、その前にもう少し時間をいただき、乾杯をさせていただきます。

乾杯の音頭を取りますのは、群響ファンズ会長であります、ＪＯＦＣ副会長、小野善平でございます。

小野副会長、よろしくお願いいたします。

皆さん、お手元にお飲み物のほうを御用意できましたでしょうか。

○小野善平（ＪＯＦＣ副会長）　　皆様、こんばんは。群響ファンズ所属の小野といいます。ＡＩＲＤＯで参りました。

これ以上、何もつけ加えることはないのですが、自分自身の言葉で語りますので、また重複となりますが、お許しください。

ＪＯＦＣ発祥の地であります、そしてまたＪＯＦＣ会長のおひざ元であります札幌での最初の総会が非常に成功裏に終わりましたことをまずお喜び申し上げますとともに、その準備に当たってくださいました札響くらぶの皆様方、また関係する皆様方に、まず御礼を申し上げたいと思います。

今回の総会、非常に有意義な総会であったと思います。ポイントを絞った各クラブからの報告、そして、札幌宣言の背景にある理念、こうしたものを通しまして、私たちファンクラブがどのような基盤に立っているか、そして、応援ということをどのような方向でいったらいいか、こうしたことを皆さんが共有できたのではないかと、そういうきっかけになった会であり、非常にうれしく思いました。

そして何よりも、先ほどの圧倒的な札響の名演、そしてまた、先ほどの首席チェリストの方の厳粛なチェロの演奏、こうした感動の余韻の中で皆さんと乾杯をしたいと思いますが、ちょっとまた四つ、マイクを通しながら言いたいと思うのです。

まず、札幌総会の成功をお祝いし、また、御参会の皆様方の御健勝を祈念し、そしてまた、それぞれの地域のオーケストラがそれぞれの地域に根差して、個性豊かな、そして日本を代表するオーケストラとしてますます発展することを願い、そして、このＪＯＦＣの場が、それぞれの地域、そしてオーケストラの自慢話で満ちあふれるような、そして活気あふれる会としてこれからも長く続くことを願いまして、乾杯したいと思います。よろしく御唱和願いたいと思います。

乾杯。（乾杯）

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。（拍手）

それでは、しばらくの間、御歓談ください。

なお、奥のほうに食べ物のほうも御用意しておりますので、御自由におとりください。

よろしくお願いします。

（歓　　談）

来賓スピーチ

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　皆様、楽しいお話が弾んでらっしゃるかと存じます。

ここから司会がかわりまして、私、前田郁子が務めさせていただきます。

よろしくお願いいたします。（拍手）

それでは、ここで、御来賓のスピーチをいただこうと思います。

まず最初に、札幌市観光文化局文化部長、杉本雅章様、お願いいたします。（拍手）

杉本様は、札幌交響楽団評議員も務めておられます。

○杉本雅章（札幌市観光文化局文化部長）　　皆さん、こんばんは。

日本各地から札幌にお集まりいただきましたオーケストラを愛するファンクラブの皆様、ようこそおいでくださいました。心から歓迎を申し上げたいと思います。

本日は、昼の総会で私の上司の観光文化局長がごあいさつをし、この交流会で私がスピーチをさせていただくということで、私の部の職員が局長と私のあいさつ原稿をつくってくれたのですが、あろうことか局長が総会で私の原稿の分まで読んでしまったものですから、きょうは急遽、予定を変更いたしまして、実は、きょうからアートステージという事業を札幌でやっております。先ほど入り口のところで皆さんにお配りした、ちょっと皆さん、申しわけないのですが、この冊子をちょっともう一度お手元に御準備願えますでしょうか。

よろしいでしょうか。

このアートステージという事業、１１月の１カ月間を文化・芸術月間と名づけまして、市内各所で美術ですとか音楽ですとか演劇を集中的に開催して、市民に気軽にアートに触れてもらおうという、そういう事業でございます。

きょうからということで、きょうとあした、すぐ見ていただけるところをちょっと御紹介したいと思います。

８ページをごらんいただけますでしょうか。

これは、アートストリートといいまして、現代アートの彫刻やインスタレーションの展

示をしている美術展でございます。

実は昨年、まさに３．１１の大震災の直前に、このＪＲ札幌駅から大通までの５００メートルの地下空間がオープンいたしました。この地下歩行空間の両サイドを会場にした美術展でございます。もちろん、公共空間ですから無料でございます。

こちらは中島公園の駅からもう一つ、地下鉄に乗っていただきまして、大通駅でおりていただきまして、そこから札幌駅までの、大体５００メートルで、歩いても１０分もかかりません。あす、お帰りの際にぜひ、ぶらぶら歩いて、お楽しみいただきたいなというふうに思います。

それから、２０ページをお開きください。

さっぽろスクール音楽祭でございますけれども、これは先ほど皆様に札響の演奏会を聴いていただきましたＫｉｔａｒａで、市内の小学校、中学校、高校生の合唱ですとか吹奏楽の発表を行うものであります。札幌の子供たちにとりましては、Ｋｉｔａｒａで演奏ができるとか、合唱ができるとかいうのは、本当にこれは夢であり、あこがれであります。ちょうどあしたがまさにこの発表会でありますので、このホテルからもすぐ近くでございますから、ぜひ足を運んでいただきたいなと思います。

それから、１２ページをちょっとごらんいただけますでしょうか。

札幌は、実は全国でも非常に演劇の盛んなまちでありまして、市内に大体８０から１００ぐらいの劇団がございます。それで、１１月の１カ月間、たくさんの演劇を上演しております。このパークホテルの東側の道路を渡っていったところの地下にシアターＺＯＯという劇場もございまして、きょう、あしたは、１３ページの真ん中にございますけれども、無言劇の「水の駅」というのをやってございます。もし演劇の好きな方もいらっしゃいましたら、観劇していただきたいと思います。

余り長くなってもあれですので、最後に、本日御参加の各ファンクラブの皆様におかれましては、どうぞ今後ともオーケストラと市民の架け橋として、地元のオーケストラへの支援と、それから、それぞれの都市の音楽文化の振興に御尽力いただきますよう御祈念を申し上げまして、歓迎のスピーチにかえさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　ありがとうございます。

札幌市観光文化局文化部長、杉本雅章様のごあいさつをいただきました。

札幌が誇る文化・芸術、さっぽろアートステージの御案内をいただきました。皆様、お時間がございましたら、どうぞ足をお運びいただきますようお願いいたします。

続きまして、石川県音楽文化振興事業団常務理事、三国栄様、お願いいたします。（拍手）

○三国　栄（石川県音楽文化振興事業団常務理事）　　皆さん、こんばんは。

私もここで来賓ということでこの席に座らされたのは、恐らく去年、金沢で第５回の総会がありまして、そのお礼の機会を与えていただけたのではないかなと思っております。ありがとうございます。

昨年は、金沢で開催しましたところ、上田会長を始め全国から多数の方に御参加をいただきまして、本当にありがとうございました。

去年は私も石川県県民文化局長という立場で歓迎のあいさつをさせていただきましたけれども、去年、上田会長から、来年は札幌でやるのでぜひ来てくださいと、御案内があっ

たのですけれども、私はそのときにはまず行けると思っていませんでしたので、生返事をしていたのですけれども、きょうは常務理事ということで、こういう立場でここに参加させていただくことができて、本当にうれしく思っています。

私は全くクラシックに関しては素人でございまして、きょうは、札幌に行ったらＫｉｔａｒａのホールと、そして札響の演奏をぜひお聴きしたいな、見たいなと思っておりまして、本当に予想どおりのすばらしいものでした。

そして、ここに来まして大変勉強になったことが、先ほどの施設と、そして理事長さんのごあいさつです。強引にやっぱり金集めをしようと、これは本当に、大変参考になりました。

私の立場は、常務理事ということで、要するに金集めということで、最近は非常に景気もよくありませんし、また、国、県の支援もなかなか厳しい。各協賛企業の金集めということをやっているのですけれども、大変示唆的な言葉をいただきました。

そして、今、部長のほうから、札幌市のちょっと観光のＰＲもございましたので、せっかく来ましたので、石川県のＰＲもちょっとさせていただきたいと思っております。

きょうは、我々７人が小松空港９時で札幌１０時半ですか、来ました。飛行機が満員なのです。これは恐らく、札幌へ来ているのはほとんど石川県民です。私も毎年、大体北海道に来ております。北海道はとにかく雄大な自然と新鮮な食べ物、そして、いろいろな施設もあるのですけれども、石川県は小さいのですけれども、古いものもたくさんあります。多分、お茶屋さんといってもわからない方は多いかもしれませんけれども、お茶は京都だけでなしに、お茶の文化もありますし、また、ぜひ違う意味でのそういうものも味わっていただければなと思っております。

金沢にはアマチュアのオーケストラとして６０周年を迎える団体があるのですけれども、うちのＯＥＫ、オーケストラアンサンブル金沢は、最初からプロとしてスタートしました。来年２５周年を迎えます。お聞きしましたら、札響は去年５０周年ということで、ある意味では半分なのです。親と子みたいなものです。そういう意味では、これから札響さんの御指導もいただきながら、ＯＥＫ、また頑張っていきたいと思っております。

そういうことで、また御支援をよろしくお願いしたいということと、ぜひ金沢、石川県のほうにも足を運んでいただきたいということをお願いを申し上げまして、簡単ですけれどもスピーチにかえさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　ありがとうございます。

石川県音楽文化振興事業団常務理事、三国栄様のごあいさつをいただきました。

それでは、しばらくの間、御歓談いただいてから、また御来賓のスピーチをいただこうと思います。

どうぞ御歓談ください。

（歓　　談）

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　皆様、それでは再び御来賓のスピーチをいただきたいと思います。

最初に、札幌交響楽団事務局長、宮澤敏夫様からメッセージをお願いいたしたいと思います。宮澤敏夫様は、本年より日本オーケストラ連名の総務理事も務められております。（拍手）

○宮澤敏夫（札幌交響楽団事務局長）　皆さん、こんばんは。札幌にようこそおいでいただきました。

また、今日は私どもの演奏会を聴いていただきましたけれども、楽しんでいただけましたでしょうか。（拍手）

皆様方には、各オーケストラに、本当に、お世話をかけております。本当にありがとうございます。

私は、日本オーケストラ連盟の専務理事をさせていただいていまして、各オーケストラの事情はみんな存じ上げていますし、もともと、このオーケストラ連盟というのは文化庁の予算をどうやってとってやろうかという団体ですが、残念ながらなかなかそれはとれません。今後、確かにこれから二、三年後に、補助金がどんどん減らされる時代が来ると思うので、皆様の物心両面の御支援をよろしくお願いしたいと思っております。

きょうは本当にようこそおいでくださって、ありがとうございます。

それと、実は尾高がここへ来てごあいさつをさせていただくはずだったのですけれども、尾高は今、成田へ向かっております。それで、今晩のうちにシンガポールへ飛びまして、それからメルボルンへあした着きます。それからずっとメルボルンにおりまして、今月の２７日に直接札幌に帰ってきます。ちょっと年齢の割に無茶なスケジュールを組んでおりますので、私どもが横からいろいろ言って、やめさせようとしたのですけれども、本人は全然やめる気がない。しんどい、しんどいと言いながらやっております。

きょうはメッセージを預かってきましたので、私のほうから代読させていただきます。（拍手）

音楽監督の尾高からです。

ようこそ札幌へお越しくださいました。

また、私たちの演奏をお聞きいただき、ありがとうございます。

私は、オーケストラは町の公園のようなもの、また、音楽は心の栄養と思っています。おかげさまで、すてきな中島公園の中にすばらしいコンサートホールＫｉｔａｒａがあります。ここで奏でられる音楽が、札幌市民のオアシスであってほしいと思います。

オーケストラにとって重要なことは、プレーヤー、事務局の頑張りに加えて、お客様の御支援です。お客様が喜んでくださったとき、私たちの心に大きな喜びが生まれます。

ＪＯＦＣ総会も６回目とのこと。広島、名古屋、金沢、高崎、山形、仙台、すべてのオーケストラがすばらしい活動をしていることはもちろんですが、ＪＯＦＣがそれを援助してくださっていることに深く感謝をいたします。

ウィーン・フィルのメンバーは、定期演奏会のときに客席を見て、きょうは何々さんが欠席だ、病気かな。また、いつもと違う人が座っているのを見つけると、あれは息子さんかなと言ったりしています。そのくらい舞台と定期会員が一つの家族のようになっています。ＪＯＦＣのますますの御発展により、このような状況に近づいていけたらすばらしいですね。

本日は大いにお楽しみください。御一緒できなくて残念です。

以上です。（拍手）

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　宮澤敏夫様、そして、本日、残念ながら所用のため出席できませんでした、札幌交響楽団音楽監督、尾高忠明様からのメッセージをいただきました。

ありがとうございました。

続きまして、札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長、柿崎昭様にスピーチをお願いいたします。

柿崎昭様、よろしくお願いいたします。（拍手）

○柿崎　昭（札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長）　　ただいま御紹介いただきました札幌コンサートホールの柿崎でございます。

本日のＪＯＦＣの総会並びに交流会に御案内いただきまして、まことにありがとうございます。

きょうのお昼の総会で皆様方の発言を聞かせていただいておりますが、とても熱い発言ということで、さすがおらがまちのオーケストラであるという、そういう誇りを感じたところであります。

私も、そういった誇りを、同じように熱い気持ちを持って、札響とコンサートホールとの関係をちょっとお話をさせていただきたいと思います。

愛称をＫｉｔａｒａと申しますけれども、札幌コンサートホール、ことしで１５年を迎えました。音楽専用ホール建築の基本構想ができたのは、大体１９９１年ぐらいだったと思いますけれども、このころは、札響がちょうど３０年目ぐらいを迎えて、盛んに精力的な演奏活動をしていた時期でございます。

あわせて、札幌の音楽を語るにはどうしても外せないのは、ＰＭＦというものがございます。これは、バーンスタインが提唱しておりまして、いわゆる国際教育音楽祭というものでございますが、このＰＭＦも活動してございました。

こういった要因が相重なり、そして市民の強い要望があって、１９９７年７月４日に札幌コンサートホールＫｉｔａｒａがオープンしたのでございます。

それで、オープンまでの工事期間中に、札響と、いわゆるかかわりということではエピソードがございまして、音響設備を当時担っておりましたのが永田音響という会社でございました。永田音響設計と申しますけれども、札響との共同作業の中で、ステージのひな壇、２４分割の自動のものなのですが、このひな壇を設計するに当たって、札響の団員の方と随分長い間議論を闘わせながら、そして決めていったという記録が残ってございます。

あわせて、きょう、ホールを見ていただいたかと思うのですが、ワインヤード型のホールということでございまして、反響板が上についてございます。あの反響板は大体２８トンぐらいのものをつり下げておりますが、その位置をどこにするかということも、非常に、札響の方に実際に音を出しをしていただいて、分析をしながら決めていったということがございます。その結果、ステージから１３．５メートルの高さ、これがオーケストラ仕様として最高であるということで、その当時から現在に至っても１３．５メートルの高さでもって演奏をしております。

これは工事期間中のことでございますが、その後、オープンを迎えまして、式典ということになりますけれども、三善晃さん作曲の札幌コンサートホール開館記念ファンファー

レを奏でまして、その後、札響の団員の方、市民の合唱団の方、ベートーベンの第９を演奏していただきました。これで札幌の音楽史の新しいページが幕開けとなったわけであります。同時に、私どもの札幌コンサートホール並びに札響と、お互いに協力しあって、一緒にスタートしたという記念される日でございました。

それから、ちょっと時代はさかのぼりますが、先ほどマエストロの尾高さんのお話もございましたけれども、２００６年にマエストロ尾高さんと、それからコンサートホールの関係者の対談がございました。マエストロが次のように述べておりました。「理想的なコンサートホールであるＫｉｔａｒａで足りないものは歴史である」。これは２００６年に言った言葉です。そして、「その歴史を担うのが札響の存在なのだ」と。「札響も向上していかなければだめだ」という対談をしたという記録がございました。

同時に、私はそれを読みまして、こう思いました。いいホールの条件というのは、いいオーケストラが存在すると言われております。ウィーンの学友協会、ウィーン・フィルがございます。ベルリン・フィルハーモニーホール、ベルリン・フィルがございます。しからば、札幌コンサートホールには札響がございます。札響の音を語るためにはコンサートホールＫｉｔａｒａの音響を語るに等しいものである、私はこのように考えてございます。

ちょっと話が長くなりましたが、先ほど私も仕事をちょっとさぼりまして、３時からの演奏会を聞いておりました。そこで、マエストロが演奏前に、きょうはライブ録音しております。ライブ録音するに当たって、普通は演奏会場で響いているから、録音会場としてすぐれているとは言いがたいところも多い。ところが、このコンサートホールは、コンサートホールでありながら録音も十分にできるすばらしい施設なのだというお言葉をいただきました。私は、施設を預かる者として、ああ、とてもいい言葉をいただいたと感激をいたしておりました。

そういうことで、札響と私どもコンサートホールは信頼関係を持って、これからますます一緒に歩んでまいりたいと思います。

手前みそで札響とＫｉｔａｒａの関係ばかりのお話でありましたけれども、これからますますＪＯＦＣの発展を祈念いたしまして、あいさつにかえたいと思います。

ありがとうございます。（拍手）

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　柿崎昭様、ありがとうございました。

（しばらくの間歓談）

参加クラブ、札響の紹介

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　それでは、ここで、本日御参加いただきました楽員の皆様を御紹介したいと思います。

札幌交響楽団事務局・楽団員

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　皆さん、御歓談中のところ申しわけありません。引き続きまして、札幌交響楽団楽員の方の御紹介をさせていただきたいと思いますので、お名前を呼ばれた方はステージの上にお上がりいただきたいと思います。

チェロ首席奏者の石川祐支さん。（拍手）

続きまして、バイオリン奏者、土井奏さん。（拍手）
ビオラ奏者、物部憲一さん。（拍手）（物部氏「登らなきゃだめなの」と呼ぶ。）ええ。一応、顔を覚えていただくという趣旨ですので。何もしゃべらなくても結構です。もし一言あれば、どうぞ。（拍手）
○石川祐支（札響チェロ首席奏者）　　本日は北海道に来てくださり、ありがとうございました。そして、何より先ほど僕の演奏を聴いていただきまして、本当に恐縮です。ありがとうございます。
きょうは本当にありがとうございました。（拍手）
○土井　奏（札響ヴァイオリン奏者）　　エルガー、どうだったでしょうか。よかったですか。（拍手）１楽章と４楽章に一番後ろのプルトだけで弾けという指示があったの、わかりましたか、皆さん。僕が弾いていたのです。（拍手）わからないですよね。来年ＣＤが出ますから、そこでたくさん聴いてください。
今後もよろしくお願いいたします。（拍手）
○物部憲一（札響ヴィオラ奏者）　　皆様、いつも札響を支えていただいて、本当にありがとうございます。また皆様の力をおかりして、ますます僕たちも頑張りたいと思います。応援よろしくお願いいたします。（拍手）
○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　ありがとうございました。
ちょっとした裏話も聞くことができました。ＣＤが出た際には、ぜひ皆さん、この部分をチェックしてみてください。
それでは、ただいまから、本日この交流会に御参加いただきました皆様の御紹介を行います。
御紹介は団体ごとに行いますので、私のほうからお呼びしました団体の方々は、こちらのステージにお集まりください。
それでは、広響フレンズの皆様、ステージのほうへお願いします。名前を御紹介しますので、恥ずかしがらずに、どうぞどうぞ。
佐藤幸一さん。ＪＯＦＣ幹事でございます。本日は、お一人で御参加だそうでございます。

広響フレンズ
○佐藤幸一（広響フレンズ）　　申しわけありません。活動報告とともに一番最初にごあいさつさせていただきます。ちょっと、連れの２人が急用ができまして、今、ほかのところに出ておりますので、私、佐藤１人が皆様に御礼のごあいさつをしたいと思います。
もう詳しいことは、かなり、先ほどの総会のときにお話ししましたが、今、広響フレンズという名前だけで、いわば有志の仲間の団体ですが、これをぜひ、今から本当に小さいところから、大きくはいかなくても長く続くようなファンクラブ、そしてオーケストラを支えるもとになりたいと思っています。
そのように、今日きました３人とともにやりまして、また広島に帰りましたら、来週、定期演奏会がありますから、その後にちょっと打ち合わせをしまして、来年は無理ですけれども、再来年、その次ぐらいには広島で総会が開けるように、そのように考えております。

余りおもしろい話は考えていないのですが、広島というのは実は、非常にいろいろなものがありまして、現在、申しわけないのですが仙台と、サッカーのほうではまさに死闘もやっております。先週ですか、札幌のコンサドーレに勝たせていただきまして、今はちょっと広島が出ているのですが、実はその広島、余りサッカーの話題になっていないのです。

広島交響楽団も、実はファンの間ではかなり、秋山和慶先生の指導のもと上達したということなのですが、まだまだ市民の間の浸透はしていないということで、ほかのいろいろな活動をしている人たちとも話し合って、まず私は広島交響楽団を広めていきたいと思っています。

私はこのＪＯＦＣに最初からかかわって来ておりまして、２００６年ですから７回目ですか、ここに来るたびごとに自分の気持ちが強くなることを感じております。来年もまた、仙台にぜひ参りたいと思いますし、そのときにはもっと多くの仲間を連れてまいりたいと思っています。

形式張った話になりますが、現在のところこれぐらいしか言えませんので、また来年、皆さんとお会いすることを楽しみにしております。

ありがとうございました。（拍手）

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　広響フレンズの佐藤幸一様のお話をいただきました。

ありがとうございました。

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　時間のほうがかなり押していまして、申しわけありませんけれども、続きまして、名フィル・ファンクラブの皆様、ステージのほうへお願いいたします。

なお、コメントのほうは手短にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

代表幹事の山田博子さん、幹事の古田英夫さん、幹事の山内満沙代さん。（発言する者あり）席外していますか。（「席外している」と呼ぶ者あり）ああ、そうですか。（「戻り次第、連絡しますので」と呼ぶ者あり）

石川県立音楽堂楽友会

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　申しわけございません。ただいまちょっとお席を外しているようですので、先に石川県立音楽堂楽友会の皆様、ステージのほうへお願いいたします。（拍手）

お名前だけの紹介をいたします。

代表幹事の静岡俊郎さん。ＪＯＦＣ幹事でございます。副代表幹事の竹田浩さん、幹事の黒瀬千鶴さん、吉川通さん、紋田稔さん、丹羽まり子さん、石川県音楽文化振興事業団常務理事の三国栄さん。（拍手）

以上の皆様でございます。（拍手）

○静岡俊郎（石川県立音楽堂楽友会代表幹事）　今回大変、札響くらぶの皆さんにお世話になりました。ありがとうございます。

昨年、なれない中で第５回総会のＪＯＦＣＦＣ　ｉｎ　金沢をやらせていただきまして、多数の御参加をいただきまして、ありがとうございます。

今日はまた、そういう意味では大変お世話をかけますけれども、またよろしくお願いしたいと思います。
どうもありがとうございました。（拍手）
○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　以上、石川県立音楽堂楽友会を御紹介いたしました。（拍手）

群響ファンズ
○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　続きまして、群響ファンズの皆様、ステージのほうへお願いいたします。
会長の小野善平さん。ＪＯＦＣ副会長でございます。（拍手）
事務局長の石守晃さん、事務局次長の横田伸次さん、事務局の田中美貴子さん、小野里めぐみさん、鹿島敬子さん、高橋由起子さん、松原勝利さん。札響くらぶ会員でもあります。里中名知夫さん。（拍手）
以上、群響ファンズの皆様です。（拍手）

山響ファンクラブ
○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　ありがとうございました。
続きまして、山響ファンクラブの皆様、ステージのほうへお願いいたします。
山響ファンクラブの皆様を御紹介いたします。
顧問の加藤聡さん。ＪＯＦＣ副会長でございます。また、札響くらぶ会員でもあります。（拍手）
副会長の佐藤彰さん。札響くらぶ会員でもあります。（拍手）
事務局長の保科誠さん。ＪＯＦＣ幹事でございます。また、札響くらぶ会員でもあります。（拍手）
多くの方が札響くらぶに参加くださいまして、ありがとうございます。
佐竹圭子さん、齋藤伸さん、佐々木美智子さん、高橋裕美子さん、杉本肇さん。（拍手）
以上、山響ファンクラブの皆様です。（拍手）

仙台フィルハーモニークラブ
○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　続きまして、仙台フィルハーモニークラブの皆様、ステージのほうへお願いいたします。（拍手）皆さんおそろいですか。
仙台フィルハーモニークラブの皆様を御紹介します。
会長の長島栄一さん。（拍手）
事務局長の佐藤佳世さん。ＪＯＦＣ幹事でございます。（拍手）
顧問の工藤一郎さん。ＪＯＦＣ副会長でございます。（拍手）
東理雅子さん、前田直美さん、松田喜美子さん、石森得夫さん、榮浪章文さん。札響くらぶ、山響ファンクラブ、群響ファンズの会員でもあります。（拍手）
お名前を呼ばれていない方、いらっしゃいませんよね。
以上、仙台フィルハーモニークラブを御紹介しました。（拍手）

名フィル・ファンクラブ

○司会（前田郁子札響くらぶ会計監査）　　続きまして、名フィル・ファンクラブの皆様、ステージのほうへお願いいたします。（拍手）

名フィル・ファンクラブの皆様、おそろいになりましたでしょうか。申しわけございません、ちょっとこの位置から見えないのです。済みません。

代表幹事の山田博子さん、幹事の古田英夫さん、幹事の山内満沙代さん。（拍手）

以上、名フィル・ファンクラブの皆様です。（拍手）

ありがとうございました。

札響くらぶ

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　最後に、札響くらぶの皆様、ステージのほうへお願いいたします。（拍手）会員の皆様もお上がりください。

皆さんおそろいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

札響くらぶの皆様を御紹介いたします。

会長の上田文雄。ＪＯＦＣ会長でございます。（拍手）

副会長の鈴木美保、同じく西川吉武。ＪＯＦＣ幹事長でございます。（拍手）

会計監査の岸田貴志。（拍手）

事務局長の武藤義典。ＪＯＦＣ事務局長でございます。また、山響ファンクラブの会員でもあります。（拍手）

事務局次長の佐々木保、同じく井上明子、同じく村上均、同じく定政みち子。（拍手）

普通会計担当の中居志津子。（拍手）

運営スタッフの西川喜佐子、佐藤高明、有田宏、榎本時也、米森宏子、朽木尚明、村山英朗、横山章子、神秀夫、上野文博、山崎サツヱ。（拍手）

会員の岩月秀広、八木幸三、家登正美、鈴木孝一、上野愛、齋藤潤、高橋司。（拍手）

以上、札響くらぶを紹介し、参加者の紹介を終了いたします。

またしばらく御歓談ください。

（歓　　談）

閉会のあいさつ

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　皆様、本日は交流会に御参加いただきまして、まことにありがとうございます。

まことに残念ながら、閉会のお時間が来てしまいました。

閉会に当たりまして、ＪＯＦＣ幹事長、西川吉武より閉会のあいさつをさせていただきます。

西川幹事長、よろしくお願いいたします。（拍手）

○西川吉武（ＪＯＦＣ幹事長兼札響くらぶ副会長）　　宴もたけなわなところ、お開きにするのは私としても非常に残念でありますが、約束事ですので、きょうのプログラムをこれで全部終わらせていただきたいと思います。

今、札幌のまちというのは、本当にアートに熱く燃えたい、アートを一つのまちのシン

ボルにしていきたい。今まで、札幌交響楽団初めＰＭＦ、あるいはジャズフェスティバル、いろいろなものがあちらこちらでたくさん行われています。それで先ほど札幌市の文化部長のほうから宣伝がありましたアートステージもその一つであります。その芸術資産というものを一つに集めると、もっと大きなパワーになるのではないか。そして、札幌が誇るのは、Ｋｉｔａｒａホールであり、ＰＭＦであり、札響であり、こういう音楽資産というものをもっともっとつなげば、もっと大きなことができるのではないか、場合によっては世界からお客様を呼べるのではないか、そんなふうにも思います。

私たち札響くらぶは、いろいろな知恵を出しながら現在進んでいます。そして、ことしから始まった、定期演奏会に音楽をやっている中学生を毎回招待する。何と、今、札響の予定、定期演奏会全部で５００名を招待することがおおむね見えています。これは来年も続けます。再来年も続けます。そして、いろいろな、それを支援してくれるスポンサー企業を集めて、そしてもっともっと支援の輪を広げたい。小学校６年生で聞いた音楽を中学生になってもう一度聴いていただいて、心の中にしっかりしまっていただく。そして、ある中学生が言っていました。「小学校でＫｉｔａｒａで聴いて、尾高さんの指揮で聴いたんだよね。あれ、忘れられない」。皆さん方、胸に手を当てて考えてみると、小さなころの体験というのは、やっぱりいまだに覚えている方はたくさんいらっしゃると思うのです。これが、やっぱり札響くらぶが今大きくやらなければいけない事業の一つだというふうにも思っています。

札響さんと手を携えながら、札響くらぶも一層進歩する、一緒に発展していく、これが私たちの合い言葉でもあります。どうぞ皆さん方、各ファンクラブにおかれましても、ぜひ、オーケストラと何ができるか、一緒になってコラボレーションしたらこんなことができたよというのを、来年の皆さんの活動報告のテーマにしたいと
思っています。

そのようなことも踏まえながら、本日は札幌交響楽団、本当に皆様ありがとうございます。そして、来賓の皆様方、本当に今日はありがとうございます。そして、各ファンクラブの皆さん、本当に御苦労さまでした。この後、また二次会がありますが、心を一つにして、このＪＯＦＣの力というものを、本当に徐々に広めていきたいなと思っております。

残念ですが、これで全プログラムを終了させていただきます。

乾杯で御唱和をいただければと思います。

皆さん、よろしいでしょうか。

仙台で会おうという唱和で、皆さんと一緒に乾杯したいと思います。

用意はいいですか。

仙台で会おう。（乾杯）

ありがとうございます。

閉会宣言

○司会（深井雅昭札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。（拍手）

皆さん、お楽しみいただけましたでしょうか。

つたない司会で、不手際のありましたことをおわび申し上げます。

これをもちまして、第６回総会ＪＯＦＣｉｎ札幌２０１２交流会を終了させていただき

ます。
　ありがとうございました。（拍手）
　なお、二次会に参加の方は、階段をおりた１階ロビーにてお待ちいただきたく、お願いいたします。札響くらぶのスタッフが会場まで御案内いたします。